平成　29　年度

事務事業評価シート

（社会教育・スポーツ課）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目　次

1　一人一人の主体的な学習と社会参加の推進
（　1　）　のへじ元気講座　・・・・・・・・・　1
（　2　）　ハッチョウトンボ観察会　・・・・・・・・・　2
（　3　）　文化賞授与式　・・・・・・・・・　3
（　4　）　馬門公民館教養講座　・・・・・・・・・　4
2　次世代を担う青少年の育成
（　1　）　子ども会事業　・・・・・・・・・　5
（　2　）　ふるさと探偵団　・・・・・・・・・　6
（　3　）　ふれあい通学合宿　・・・・・・・・・　7
（　4　）　ふれあい教育フェスティバル　・・・・・・・・・　8
（　5　）　在学青年ボランティア　・・・・・・・・・　9
3　地域を支える人材の育成
（　1　）　生涯学習大学　・・・・・・・・・　10
（　2　）　男女共同参画研修会　・・・・・・・・・　11
4　学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上
（　1　）　家庭教育推進事業　・・・・・・・・・　12
（　2　）　いのちのお話出前講座　・・・・・・・・・　13
5　社会教育推進のための基盤整備
（　1　）　社会教育団体の支援　・・・・・・・・・　14
　　子ども会育成連絡協議会、連合ＰＴＡ
　　地域婦人団体連合会、文化振興協議会の活動支援
6　生涯スポーツの普及・振興
（　1　）　町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰　・・・・・・・・・　15
（　2　）　健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催　・・・・・・・・・　16
（　3　）　青森県民スポーツレクリエーション祭参加　・・・・・・・・・　17
（　4　）　学校体育施設の開放促進　・・・・・・・・・　18
（　5　）　地域総合型スポーツクラブの検討　・・・・・・・・・　19
（　6　）　水泳教室開催　・・・・・・・・・　20
7　青少年スポーツの振興
（　1　）　スポーツ少年団への支援と育成　・・・・・・・・・　21
（　2　）　町営球場開設記念兼ライオンズクラブ旗争奪中学校野球大会の支援　・・・・・・・・・　22
（　3　）　青森県小学生スキー大会の開催　・・・・・・・・・　23
8　競技スポーツの推進
（　1　）　青森県民駅伝競走大会選手強化支援　・・・・・・・・・　24
（　2　）　町体育協会活動支援　・・・・・・・・・　25
（　3　）　競技スポーツ強化支援事業　・・・・・・・・・　26
9　スポーツ情報の充実
（　1　）　スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存　・・・・・・・・・　27
（　2　）　スポーツカレンダーの発行　・・・・・・・・・　28
10　社会体育施設・設備の整備・運営
（　1　）　体育施設の総合的な修理修繕と運営　・・・・・・・・・　29
（　2　）　体育施設利用団体会議開催による有効活用意見の聴取　・・・・・・・・・　30
11 キャリア教育の推進
（　1　）　チャレンジショップ　・・・・・・・・・　31

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	のへじ元気講座	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	参加者の自主的な学習意欲を促進し、相互交流・社会貢献を通して地域活性化を図り町を「元気」にすることと、参加者一人ひとりが生きがいを見つけ「元気」な生活を送るための心と体の健康づくりを目的に実施する。年間受講料1,000円を徴収しその中から講師への謝金等を支払っている。 収入　受講料・昼食代・繰越金　108,649円 支出　講師謝金・昼食代　104,615円			
事業の対象	成人（年8回、受講者56名、延べ受講者217名）			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	164 千円	105 千円	102 千円

事業の実績・成果等（数値）	５月３０日（火）講話「イスラムの基礎知識～私が体験したイスラムの世界から～」講師：淺利能之教育長 ６月２０日（火）講話「野辺地町の歴史と文化～みちのく丸とのへじ祇園まつり～」講師：　鈴木幹人 氏 ９月２７日（水）町外学習「株式会社ハチカン」「帆風美術館」 １０月２６日（木）音楽交歓会「町内小・中音楽交歓会」会場　野辺地小学校 １１月９日（木）手芸教室「ミニかごづくり」紙バンドクラフト作家　岩渕真理 氏 １１月２２日（水）運動教室「スポーツ吹き矢・ラダーゲッター体験」青森県レクリエーション協会　山内みどり氏・坂本弘志氏 １２月１９日（火）閉講式・料理教室「いつまでも健康・元気な食生活」講師：健康づくり課　管理栄養士　新井山静氏 ７月７日（金）特別講座　ハッチョウトンボ観察会

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	３年目となる本講座では多くの方に各講座に参加していただくことが出来た。 今後も受講生のみなさんが元気になることと、活動を通して町を元気にすることを目的に、講座内容を工夫し、より幅広く学習・活動できる場を提供していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	B	B	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

男性向け男性主体の講座を考えてみてはどうか。
平均して３０名の参加は素晴らしい。
男性向け、女性向けと最初から分けて考えてみては、内容も違ってくるのでは。

評価委員意見（平成29年度）

参加人数が多いのはいいことだが、男性がほとんど参加していないとのことなので、男性向けの講座を検討してほしい。
男性と女性の両方が参加できることは、それはそれでいい点があるとは思うが、参加者を男性と女性で限定した講座をやることも検討してみてはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ハッチョウトンボ観察会	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	青森県レッドデータのＡランクに指定されている「ハッチョウトンボ」の生息地を保護し、自然環境を保護するとともに、生態について学ぶことを目的として観察会を実施。 平成２８年度から町内小学校３年生を対象に総合的な学習として実施。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	15 千円	10 千円	10 千円

事業の実績・成果等（数値）	野辺地町スキー場　あったかハウス前にあるハッチョウトンボ生息域を、ロープで侵入を規制（６月～11月）し、トンボが生息できる環境づくり・保全を行っている。 今年度も、文化財保護審議委員の高沢岩男氏を講師に招き観察会を実施した。 今年度は一般と小学生の部の2部構成で実施。同時にのへじ元気講座の特別講座として連携を行った。 開催日：平成２９年７月７日 参加者：小学生９１名　一般：２７名　　計１１８名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	委員会内の他事業との連携により、一般の参加者も増となった。次年度は委員会事業との連携だけでなく、継続的に一般に対しても周知の増を図るための手順、ノウハウの構築が必要。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

子どもたちの観察する機会があってよい。郷土愛は小さいうちから育てていくのが良いと思う。
ＰＲ不足、参加者を増やしていけたらと思う。
一般への情報発信をもっとしてほしい。

評価委員意見（平成29年度）

担当者は準備などよくやっている。
悪天候で中止になった学年は、次の年に参加させてほしい。
悪天候になった時でも、写真や動画などを用いてハッチョウトンボについて学習できるような対応をしてはどうか。
子どもたちも大事だが、一般の方々に普及させることも重要だと思う。どんどんＰＲしてほしい。
馬門地区の人でも知らない人がたくさんいる。
ハッチョウトンボの小さいネクタイピンなど作ってみてはどうか。トンボは、後退せずに、前にだけ進むという、いい意味がある。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	文化賞授与式	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	文化活動において優れた業績をあげ、町の文化振興に寄与した方を表彰する。			
事業の対象	町民一般			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	78 千円	105 千円	116 千円

事業の実績・成果等（数値）

・１１月３０日　　小中学校、関係団体に推薦依頼
・　１月２５日　　表彰審査会（７人）、受賞通知（表彰者）
・　２月１５日　　授与式　　１６時～１７時　　中央公民館ホール
○町文化賞
①文化特別賞（個人）　２名　　②文化功労賞（個人）　３名
③文化賞　　（個人）　６名　　④文化奨励賞（個人）　２名
○教育委員会文化賞
①文化優秀賞（個人）７１名　（団体）２団体

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

作品・展覧会での入賞作品を展示可能か検討する。
受賞対象となる人物・団体が存在しても、委員会に情報が届く時期によって、当該年度中に受賞させることが難しい場合がある。
その場合は次年度の受賞対象とする等の対応のほか、引継ぎを確実に行う必要がある。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	A	B	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

小学生も公民館で表彰してもらいたいが、時間の関係ならば仕方がない。
（小学生は学校で表彰している。）

評価委員意見（平成29年度）

どんどん表彰していただけばと思う。子どもたちの励みになる。
審査基準はあるとは思うが、柔軟に対応していただきたい。
小学生は学校で表彰するため、町の表彰式の集合写真に入らないため、学校ごとで写真を撮って広報に載せあげてみてはどうか。ただし、保護者の確認等の対応が必要だと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	馬門公民館教養講座	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	趣味と教養を高めるとともに、仲間づくりのため開催する。 開講時期　６月～１０月
事業の対象	成人

事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	受講者負担（29）　千円	受講者負担（24）　千円	受講者負担（26）　千円

事業の実績・成果等（数値）	・講座内容（人数）　ダンス（９人）、着付け（７人） ・受講料　１講座１，５００円 ・講師謝金は、受講料で支出

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	発表や作品の内容が充実している。 参加者の意欲は高く、講座期間外にも自主的に活動が行われている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

次の指導者の育成を考えていただきたい。
使用頻度が高いし馬門のコミュニティの場だというのが、よく分かる。
馬門のコミュニティは根強いものがある。
次の指導者の育成とあるが、はたして、今の指導者がそのように考えているのかは現場との差があるような気がする。

評価委員意見（平成29年度）

長年継続していて素晴らしいと思う。
次の指導者の育成も大事だと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	子ども会事業	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	・子ども会の加入状況 幼児3名、小学生197名、中学生11名　計211名加入 ・実施事業について わくわくサマー体験（夏休み）、レクリエーション大会（秋期）			
事業の対象	子ども会　会員			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	204 千円	314 千円	251 千円

事業の実績・成果等（数値）	・子ども会わくわくサマー体験 平成29年8月5日　場所：小川原湖水浴場、小川原湖青年の家 子ども会員　　52名参加（うち子ども28名参加） ・子ども会レクリエーション 平成29年11月19日　場所：青少年体育センター 子ども会員、保護者　117名参加

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	サマー体験に関しては２年連続で同様の内容が続いていたため、３つのプランを用意した。次年度は活動内容について見直しが必要となる。 レクリエーションについては、世代間、地域間交流を促進させることを目的として、在学青年ボランティア会と青森県内の子ども会青年リーダーに協力を依頼した。結果としては協力者の数も多く、高校生たちが各担当の競技だけでなく、全体を通してサポートしていただいたおかげで充実した内容となった。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	A	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

子ども会に加入させると親も手伝わなければならないというめんどくささを感じる。
そのような雰囲気を解消させたい。
子ども会事業のあるところ無いところがあるので、リーダー育成を図ってほしい。
今年、小川原湖へ行った子どもたちを見ているとすごく楽しそうだった。
日帰りというところが、良くも悪くも引率者からすれば楽だと思うが、育成の意味ではリーダー研も無くなったということなのでＡには出来ない。

評価委員意見（平成29年度）

いまだに子ども会の事業を、町で組んでいることがすごいと思う。
小学生の加入率が３割程度と少ないなか、頑張っていると思う。
高校生くらいの人がお世話をしてくれると、子どもたちもなついていいと思う。
毎年子ども会がなくなって大変だと思う。
人数は少ないが、携わっている方々は一生懸命に活動しているので、高校生などをリーダーにするような研修会を受けてほしい。思いはあるがどう行動してよいか分からない子どももいる。
子ども会によっては、中学生になると声が掛からなくなるというところもあるらしいが、そうではなくて子どもが継続して活動できるようにしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふるさと探偵団	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	町の良さを知って郷土愛を深め、誇りを持たせるとともに、子ども同士のコミュニケーション能力を育成する事業を実施。 平成29年度のテーマは「北前船」によって運ばれた「石」を調査せよ			
事業の対象	小学３年～中学生			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	10 千円	15 千円	15 千円

事業の実績・成果等（数値）

平成２９年　８月　８日（火）　9:00～12:00　参加者　１０名

テ ー マ：「北前船」によって運ばれた「石」を調査せよ
　「郷土を愛する人財を育む」目標を達成する取組として、北前船交易による歴史を活用し、「野辺地らしさ」に気づく目を育み、郷土への興味と愛着をもつ心を養うほか、自分の知ったことを「伝える力」を高めることを目的とする。併せて、学びの過程の中で、様々な人物とのふれあいをとおし、コミュニケーション能力の向上を図るものとする。
　また今回は、歴史民俗資料館との連携、歴史を探る会に講師として協力いただいた。

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	参加した子ども達からはアンケート等から全体的に好意的に受け止められていた。 毎年テーマを変えて実施していたが、次回（次年度）以降は同じテーマを長期（複数年）にかけて完成させていく等も検討していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	C

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

　歴史民俗資料館とコラボして行ってはどうか。大人の専門家を入れて内容を充実させてはどうか。
　他の町ではやっていないような事業なので、継続してもらいたい。
　これからもテーマや目的に沿って、興味のわく内容を考えてもらいたい。

評価委員意見（平成29年度）

　周知は小・中学生までとなっているが、高校生にも周知して、幅を広げてもいいと思う。色々なアイディアが出ると思う。以前に参加して、高校生になった子どもたちがいいお世話係になるかもしれない。ずっと続いている事業なので、その面を生かさないともったいない。
　総合学習のような感じで、すごくいいと思うのだが、参加人数がやはり少ない。
　同じテーマで何回か続けると、深い学びになり、より町のよさに気づくきっかけになるのではないか。
　北前船も来たので、そういったことについて実施しても楽しいと思う。
　今回はテーマが「石」だったが、子どもたちが興味を持つか疑問だった。町にとっては歴史がわかる大事なものかもしれないが、子どもの視点に立って、魅力的なテーマを考えてほしい。アピールの仕方に工夫が必要だと感じた。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい通学合宿	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	２泊３日で宿泊して通学をし、助け合って活動することで、身の回りのことなどの居・食・住を自分でできるようにし、自立心の養成や団体生活を通しての交流を図ることを目的に実施する。			
事業の対象	小学生、中学生			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	165 千円	138 千円	139 千円

事業の実績・成果等（数値）
平成２９年９月６日（木）～８日（土） 野辺地町中央公民館 ９月６日…開会式、買い物、夕食調理、入浴、宿題・自主学習 ９月７日…朝食調理、夕食調理、入浴、３Ｂ体操 ９月８日…朝食調理、館内清掃、流しそうめん、感想文作成、閉会式 参加人数：１７人（野小９人、若小５人、馬小０人、野中３人） （男女内訳　男子　８人　女子９人）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	実施日について、町事業（町政１２０周年記念式典、北前船寄港地フォーラム）の関係上、今回の日程としたが、町内小学校合同の５年生宿泊合宿が９月５日、６日に一泊二日で行われたため、５年生参加者が３名と例年より少なかった。他学年との交流も目的に考えられるため、実施日については要検討する必要がある。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	A	A	B	B	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

すばらしい事業なので、これからも継続してもらいたい。
こういう機会をなくして欲しくない。

評価委員意見（平成29年度）

９月の一週目は学校行事で宿泊合宿があるので、８月中にやってもらった方がよい。
馬門小学校の児童の参加が少ない。やはり少人数で参加しづらいと思うので、参加しやすくなるような取組をお願いしたい。大人の人でも仕掛け人になるような人はいないか。子どもたちが親しみやすい人がいれば参加しやすくなるのではないか。
小学生の頃参加していた中学生が継続的に参加しており、世話人としても活躍しているのがよい。そのままジュニアリーダーになってくれるとありがたいと思う。
当初は３年程度の事業であったが、継続して実施しているのはいいと思う。
３Ｂ体操は子どもたちも張り切って取り組んでいた。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい教育フェスティバル	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	毎月20日を「ふれあい教育の日」と定め「大切にしたいね、家族の会話」を標語に様々な事業を実施。 競技・生涯スポーツの分野において活躍されている各種団体を招き、披露することで、人と人とのふれあいや家族のコミュニケーションを深めることを目的とする。			
事業の対象	小学生、中学生、成人			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	161 千円	241 千円	285 千円

事業の実績・成果等（数値）	第8回野辺地町ふれあい教育フェスティバル 日　時　平成29年10月9日（月）体育の日　13時～　町立体育館 内　容　第一部 ①あすなろレディース　２０名 「アカシヤの大連」、「情熱のバラ」　演技 ②公益社団法人日本３Ｂ体操協会青森県本部　２５名 「ベルダー・スレイ」、「ベルダー・メモリー」　演技 第二部 ③青森山田高等学校体操部　４９名 「新体操の華麗な世界」　演技 来場者　６００名　・・・出演者、関係者含　約７２０名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	○周知方法　町内各地にポスター掲示とチラシの配布、広報無線の活用。 ○多くの来場者があり、パンフレット不足と駐車場があふれる状況。 ○親子連れが多く見られた。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	B	A	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

自分の子供の出番が終わると、皆、帰ってしまう。
最後まで観客が帰らないような魅力ある企画にしてもらいたい。
人と人とのコミュニケーションが深まるような体験型のイベントも含めて行えば、事業の目的（ふれあい教育）にも合致したものになる。
家族とのふれあいだけでなく、参加した第３者ともふれあいが深まる。

評価委員意見（平成29年度）

やはり青森山田高校の演技は素晴らしかった。
来場していた子どもたちに、高校生がうまく補助しながら、簡単な演技をやらせていたのがよかった。
来場者も多く、内容がよかったと思う。
テーマによって来場者数に差がありすぎるので、内容に工夫をしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	在学青年ボランティア会	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	高校生（野辺地高校・野辺地西高校）を対象としてボランティア意識を醸成することを目的として実施。 平成29年5月～平成30年2月 収入　31,005円　　支出　40,723円			
事業の対象	高校生			
事　業　費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	29 千円	41 千円	67 千円

事業の実績・成果等（数値）	①７月３０日（日）　「常夜燈フェスタ」ブース運営 子ども向けブースの運営を行い、来場した子どもとの交流を図った。 ②１０月１４日（土）　「保育園訪問事業」 保育園を訪問し、バルーンアートの披露と作成の指導を通して、参加者との交流を図った。 ③１１月１９日（日）　「子ども会リクリエーション大会」 子ども会が主催する子ども会レクリエーション大会にてレクリエーション競技の運営と補助を行った。 ④２月１０日（土）　「一人暮らし老人宅訪問事業」 除雪作業や手作りのお菓子配布を通して、地域交流を図ると共に高校生のボランティア精神の育成を図った。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	各校のボランティア部員は減少傾向にあるものの、自ら企画し事業を実施する等高校生が主体となり活動することが出来た。今後も高校生の意見を取り入れながら事業を展開していきたい。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

子供たちに少し年上の世代のお兄さん・お姉さんがボランティアで活躍している姿を見せる良い機会だ。　子供たちから見たら親近感があって良いモデリングになる。
学校やＰＴＡも親子ふれあいフェスティバルなどの事業を継続するうえで、たいへん助けられている。

評価委員意見（平成29年度）

各高校のボランティア部に声をかけているらしいが、それぞれのボランティア実施毎に広く募集する方がいいと思う。子どもたちにもそれぞれ都合があるし、進学に向けて行っておきたいと思う子どももいると思う。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	生涯学習大学	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	体系的な高度な学習内容の講座を開設し、町民の生涯学習及び社会参加活動による生きがいの創造を推進するとともに、学生が地域活動のリーダーとして活躍することを目指し実施した。 平成５年度事業開始し、２４年目となる。			
事業の対象	成人（年間登録制）			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	受講者負担（109）　千円	受講者負担（94）　千円	受講者負担（88）　千円

事業の実績・成果等（数値）	平成29年7月～12月　18：00～19：30　図書館ほか　受講料2,000円　受講者数43名　延215名受講 ①『合言葉は、「新郷村の元気は川代から発信！』川代地区振興会　副会長　遠藤勇一氏 ②『知ってますか？青森りんごのいろいろ』青森県農林水産部りんご果樹課　副参事　堀口恵理子氏 ③『人間関係で悩まないために』青森大学社会学部　教授　藤林正雄氏 ④『ふれあい教育フェスティバル』青森山田高等学校体操部の演技、町内団体の演技 ⑤『どうなる日本政治と経済』（町外研修）読売新聞特別編集委員　橋本五郎氏 ⑥『諦めない心』長野冬季パラリンピックバイアスロン競技　銀メダリスト　野澤英二氏 ⑦『好きの力で前に進める　つるた街プロジェクト～個性を活かせば世代の垣根もこえられる』つるた街プロジェクト　岡詩子氏

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	新規参加者の増加や学習の継続がされている。今後も様々な分野のテーマを選定し、学習の場を提供していきたい。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	A	A	B	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

内容的の割に非常に安い。
先日、山田スイッチさんが来て下さり、大変楽しかった。
参加した方々が、地域で意識を持って学んだことを外へ活躍して欲しい。

評価委員意見（平成29年度）

事業開始２４年目の事業で、２２年生の方もいるというのはすごいと思う。
様々な内容の講座を実施し、工夫されていていいと思う。
各分野で活躍されている方々が分かりやすく、濃いお話をしてくれるので、参加者も毎回期待して参加している。
若い人たちの参加が少ないのが残念なので、チラシなどで広報はしているが、例えば参加者の感想なども紹介してみてはどうか。
参加者にアンケートを事前にとって、受講者が希望するテーマについての講座を実施しようとしているのがよい。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	男女共同参画研修会	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	男女共同参画への意識向上を図るため庁内職員及び町民を対象として意識啓発講演会を実施する。			
事業の対象	庁内職員及び町民			
事　業　費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	40 千円	60 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	・男女共同参画講演会 日　　時　平成３０年３月２５日（日）１０：００～１２：００ 場　　所　野辺地町健康増進センター　ホール 参加人数　５４名（男１１名　女４３名） 内　　容　「落語で学ぶ　男女共同参画 男女共同参画とはジェンダーハラスメントをなくすこと！」 講　　師　男女共同参画落語創作・口演家　千金亭値千金　氏 （埼玉県鶴ヶ島職員） 広報への掲載と町防災無線のほか、男女共同参画ネットワーク加盟団体や教育委員会事業で周知し、職員研修会も兼ねて実施した。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	■ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	意識啓発を目的に、高齢者を主な対象者として「男女差別」をテーマに講演会を実施した。 男女共同参画については、人材育成の観点から当課で担当していたが、平成３０年度より町部局で担当することとなったため、平成２９年度で教育委員会としての事業は終了とする。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　■ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	C

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

民間との連携も視野に入れ、効率的な活動になるように役場全体で見直してはどうでしょうか。

評価委員意見（平成29年度）

平成３０年度からは地域戦略課に事業が移るとのことなので、今まで大変だったと思うがお疲れ様でした。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	家庭教育推進事業	担当者名	清水目　唯那

事業の目的・内容	参観日や保護者会等の保護者が多く集まる機会に保護者または園児・児童を対象として家庭教育に関する講座を実施している。実施場所は小中学校・幼稚園・保育園。 開催時期　平成29年7月～平成29年12月 参加者数　約561名（園児・児童含む）			
事業の対象	幼児・児童とその保護者			
事　業　費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	35 千円	25 千円	70 千円

事業の実績・成果等（数値）	①７月４日（火）カトリック幼稚園「親子でキッズダンス」講師　スタジオクラウド　駒井慎也氏 ②７月５日（水）馬門小「楽しいがいっぱい　絵本のススメ」　講師　親子ふれあい読書アドバイザー　岩本ヤヨエ氏 ③９月２９日（金）わかば保育園「親子でキッズダンス」講師　スタジオクラウド　駒井慎也氏 ④１０月１４日（土）野辺地保育園「親子でバルーンアートを楽しむ会」講師　在学青年ボランティア会 ⑤１２月８日（金）野辺地小学校「きれな歯と口で歯っぴーに！」講師　野坂歯科　野坂庸子氏

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	参加保護者からのアンケート結果をみても、本講座への満足度は高いと思う。 今後の課題としては、各校や園が要望するもの以外に、県の派遣事業等の情報収集を行い、事務局が情報提供や提案できる態勢等の工夫をしていきたいと感じた。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

町の教育振興基本計画で強調している内容とは、まだまだ改善の余地があるのかなと感じている。
施策で学校・家庭・地域の連携とあるが、もっと強化して欲しい。
親子の触れ合いは大事だと思う。

評価委員意見（平成29年度）

各実施主体にお金を出しているのはありがたいと思うのだが、残念なことに、保護者の方々の参加が少ない。なるべく参観日などに合わせてやっているのだが、その時間になると帰ってしまう。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	いのちのお話出前講座	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	町内３小学校合同で４学年とその保護者を対象に、男女の体の違いや妊娠・出産の知識を正しく伝えることで性と心の教育及び親子の絆を深めてもらうための講座を実施。 委託料　37,800円（消費税・交通費含）協力妊婦謝礼　5,000円（町商品券）消耗品費　35,000円 ※健康づくり課を通して県より全額補助を受けている（平成２８年度～）			
事業の対象	町内４学年児童とその保護者			
事　業　費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	78 千円	78 千円	78 千円

事業の実績・成果等（数値）	対象：町内３小学校４学年とその保護者 人数：121人（児童96人・保護者16人・教員9人） 講師：青森県助産師会「いのちのお話プロジェクトあかり」 会場：野辺地小学校　講堂 （会場校は若葉→野辺地→馬門の順に持ち回り） 健康づくり課を通して町内在住妊婦へ、講座内で胎動の心音を聞かせていただく協力を要請している。なお、平成２８年度より協力妊婦へ謝礼として町商品券を渡している。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	平成２８年度より県補助を受け、委託業者への委託料と交通費、協力妊婦への謝礼を計上している。保護者から児童への手紙や、出前講座の内容は、出産時やいのちの大切さを振り返る良い機会となっている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

課題の改善へ向けてほしい。

評価委員意見（平成29年度）

それぞれの学校で実施してほしい。保護者の参加がやはり少ない。保護者は、会場校が自分の子どもが通っていない学校だとなかなか行かないと思う。予算や養護教諭の負担など、考慮しなければならないと思うが検討してほしい。
このようにお金を出していただいているのは、ありがたいと思うので継続してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	社会教育団体の支援	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	社会教育における青少年健全育成及び文化活動等を推進するため、団体が行なう事業について、補助する。また、団体事業を支援する。			
事業の対象	社会教育団体			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	487 千円	477 千円	427 千円

事業の実績・成果等（数値）

団体補助金

①子ども会育成連絡協議会	100,000円	②婦人団体連合会	68,000円
③文化振興協議会	134,000円	④連合ＰＴＡ	100,000円
⑤在学青年ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ会	15,000円	⑥文化少年団	60,000円

・子ども会、在学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱは教委で、文化少年団は公民館で事務局を務めており、体験活動の充実を図っている。
・連合ＰＴＡでは、２４年度から緊急メールシステムに着手。教委では、経費を補助している。

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

・緊急メールへの登録は、保護者の理解により、約９割が登録し、台風時の緊急連絡や行事連絡で活用されているほか、昨年度は不審者情報等の早急な周知に活用されている。
・各団体の活動者の無理のない世代交代が必要と思われる。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

今後も継続して充実を図ってほしい。

評価委員意見（平成29年度）

様々な団体にお金を出してもらってありがたいと思う。
連合ＰＴＡへの補助金のうち、緊急メールシステムに係る経費として出ている部分があるが、連合ＰＴＡの収入がどんどん減っている状況なので、緊急メールシステムを無料のものに変えた際には、それ以外の部分でも使えるようにしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	スポーツ競技大会において優れた成績をおさめた者を表彰し、もって野辺地町のスポーツの普及、振興を促進することを目的とする。			
事業の対象	野辺地町表彰規則による（町民他）			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	379 千円	331 千円	372 千円

事業の実績・成果等（数値）

平成３０年２月１５日（木）　１６時～１７時　中央公民館ホール

記念品-241,809円　消耗品費-9,257円　印刷製本費-67,340円　筆耕料-11,700円

県大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者、及び町のスポーツ振興に寄与した者を野辺地町スポーツ賞として表彰した。また、郡大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者を野辺地町教育委員会スポーツ賞として表彰。
町：スポーツ功労賞１名　スポーツ大賞１名　スポーツ賞（個人）５名（団体）１団体　スポーツ優秀選手賞（個人）１９名（団体）１０団体。
委員会：生涯スポーツ優秀賞１名　スポーツ奨励賞（個人）１８名（団体）５団体

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	25年度に表彰規程の見直しを行った結果、選考基準が受賞の明確化につながってスムーズに審査できる。 昨年度に引き続き受賞する個人・団体が増加の傾向にあり、受賞する選手・団体の励みや競技力の向上につがっている。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

これがあることで励みになると思う。

評価委員意見（平成29年度）

子どもたちの励みになると思うので、継続して実施してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	健康増進及び運動不足解消を目的に多くの町民の参加を募集し、町民の健康維持の一助となることを目的とする。野辺地町から仙台市までの距離（４００キロ）を完歩することを目標にし、自分のペースでプールの中を歩く。配布しているスタンプカードに当日歩いた距離を記入し、スタンプを押して記録する。実施期間終了後に最終結果を掲載した完水歩証を配布し、上位５位に施設無料券を贈呈する。なお、参加者は施設使用料が４１０円から２１０円になる。
事業の対象	２０歳以上の町民

事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	19 千円	22 千円	22 千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　間：平成２９年７月１９日（水）～平成３０年３月１１日（日） 場　　所：野辺地町屋内温水プール「サンビレッジのへじ」 参加者数：１５６名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町民がスポーツ活動を始めるきっかけになっており、普段施設を使用しない利用者が施設を活用してスポーツ活動に取組んでいる。 参加者からも健康になった、運動が習慣化した、友人が増えたとの声が上がっている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

もっとＰＲをして欲しい。
参加者134名と多いところは評価されるべきだ。

評価委員意見（平成29年度）

平成２９年度は４００キロを完歩できた人がいなかったようなので、単年度ではなく複数年の累計でも完歩できたら、何かあげてもいいのではないか。何年かかけて沖縄を目指すなど、継続してくる理由にもなる。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民スポーツレクリエーション祭参加	担当者名	玉山順一

事業の目的・内容	広く県民にスポーツ・レクリエーション活動の場を提供し、県民一人ひとりの活動への参加意欲を喚起するとともに、県民の生涯を通したスポーツ・レクリエーション活動の実践を図り、もって健康で活力ある生活に資することを目的としている。
事業の対象	野辺地町の各種レクリエーション団体が参加

事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	23 千円	30 千円	36 千円

事業の実績・成果等（数値）

第１０回青森県スポーツ・レクリエーション祭への参加

平成２９年６月２５日（日）７月１日（土）２日（日）主会場：青森市ほか

参加競技（８団体８４名参加）

①グラウンド・ゴルフ競技	15名	②ゲートボール競技	7名
③ふれあいボウリング競技	1名	⑤マスターズ陸上競技	4名
⑤レクリエーションダンス競技	18名	⑥ターゲット・バードゴルフ競技	5名
⑦フォークダンス競技	9名	⑧3Ｂ体操競技	25名

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

生涯スポーツについては、各団体において活動に積極的に参加しており非常に良い方向に進んでいると思われる。
このような催しにできるだけ当町の代表として参加してほしい。
参加団体は２団体、参加人数が２４名の増加した。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

団体、一般に対して、もっと周知を図ってほしい。

評価委員意見（平成29年度）

前年と同様で、団体、一般に対して、もっと周知を図ってほしい。
年々参加者も減少しており、人集めが大変だと思うががんばってほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	学校体育施設の開放促進	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	スポーツ活動の普及・振興を目的として町内小・中学校の体育館、校庭を児童・生徒が使用していない時間に開放する。 年間で使用する団体へは一年毎に申請書を提出してもらうこととしている。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２９年度　年間利用 利用団体　１９団体 利用回数 若葉小学校　　３７９回 野辺地小学校　２５９回 馬門小学校　　３１回 野辺地中学校　　５１回 計　７２０回

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	多くの団体が体育館を利用し、活動が行われている。 利用マナーについては改善されてきていると感じているが今後も注意を促していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。
もっと、利用者に規制して厳しくしてほしい。
利用者に使った後のゴミ等あとしまつをチェックできるようなチェック表を書いてもらってらどうか。

評価委員意見（平成29年度）

学校としては、きれいに使ってくれるのであれば、いくらでも使ってほしいと思う。たまにあるのが、小さいお子さんが来た時に、お菓子のごみがあるのが気になる。また、普段児童には立ち入らせない場所に侵入していたというのも聞こえてくるので、そういった部分のマナーは配慮してほしい。
小さいお子さんから大人まで幅広い年代の人々の体育施設として開放していることはいい事だと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	地域総合型スポーツクラブの検討	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	当町の各スポーツ団体との連携を強化し、地域住民にも理解を求め、それぞれが有する課題等の共有、解決を図りながら、町のスポーツの方向性を検討する。			
事業の対象	町民全般			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円
事業の実績・成果等（数値）	平成２８年度まで、年度末に地域総合型スポーツクラブに関する研修会を開催していたが、２９年度は新たな試みとして、高齢者のスポーツに関するニーズを調査するため「カスタムメイド健康づくり事業」（県事業）を活用し、１１月から２月に全４回の健康体操講座を開催した。			

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	累計１００名を超える参加者があり、来年度の開催を望む声もあり、好評であり、高齢者のスポーツニーズが多いことが分った。 総合型スポーツクラブの核となる内容についてはさらなる検討が必要。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

子どもたちの活躍の場、選択できる場の提供として必要である。
子どもの数が少なくなっているので推し進めてほしい。

評価委員意見（平成29年度）

小学生も対象にしながら、是非進めていってほしいと思う。色々なスポーツを体験できるようになるし、町のスポーツの核であるスキーなどをやる子どもたちがどんどん減っているので、冬はスキーとか、季節によってやるスポーツを変えることができるようになればいいと思う。
様々な利点があると思うので、立ち上げるまで大変だと思うが、がんばってほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	水泳教室開催業務	担当者名	石田　　晃

事業の目的 ・内容	幼児・児童を対象に、安全かつ楽しく水泳し水に慣れること及び泳力技術向上を目的に前期と後期の二期にわたる水泳教室を開催する。 講師はウィング青森より２名が派遣されている。 参加料　幼児１，５００円　児童１，９００円（児童は入館料４００円含む） 募集定員人数 　前期　幼児　４０名　児童　６０名 　後期　幼児　２６名　児童　４０名
事業の対象	幼児・児童

事　業　費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	372 千円	322 千円	322 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	平成２９年度実績　（毎週木曜日実施） 前期　第１グループ 5/25～6/22　第２グループ　6/29～7/20 後期　9/14～10/5 参加人数　前期　幼児　３７名　児童６０名 　　後期　幼児　２５名　児童４１名　　計　１６３名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	前期、後期ともに幼児の参加者が定員に満たなかった。水に慣れることと楽しく水泳をすることを第一の目的に実施してきていたが、更なる泳力向上を求めている小学生参加者が増加している。来年度より定員人数と実施日、カリキュラム等を検討し、継続実施する。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

大人向けの教室もあれば良いと思う。

評価委員意見（平成29年度）

町の施設を有効に使いながら、子どもたちに体験をさせていて、いい事だと思う。
以前はすぐに申込みしないといけないくらい参加者がいたが、少なくなっていてびっくりした。
これで泳げるようになる子どもたちも多いし、いい事業だと思う。
回数頻度がもう少し多ければ、参加できる機会が増えると思うので、実施回数について検討してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ少年団への支援と育成	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	子供がスポーツしやすい環境をつくり、スポーツを通して団体行動や仲間づくりに励む場を提供することで学ぶ機会を与える。 平成２９年度登録状況 団数　１０団　　登録者数　２１６名 指導者数　３９名　（うち有資格者指導者数３３名） ※団員の登録が３歳から可能となった。			
事業の対象	小・中学生、指導者			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	623 千円	676 千円	375 千円

事業の実績・成果等（数値）	町スポーツ少年団の事務局として、団員の登録申請や各スポーツ少年団大会申込をおこなう。 また、各単位団に大会参加料や活動費にあててもらう為、補助金を配布する。 ・団体割　…町スポ少へ登録している団体へ助成 ・団員割　…　〃　人数によって助成 ・認定員講習会参加費…資格取得のための講習会に参加した方への助成

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	団数割補助、団員割補助、認定員講習会参加費を継続して助成している。 今後も各少年団の活発な活動と指導者の資格取得を促進するため助成を継続していきたい。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

指導者の養成に成果を出して欲しい。

評価委員意見（平成29年度）

活動する団体とすれば、こういった活動費などのお金をいただけるのはありがたいと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町営球場開設記念兼ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ旗奪取中学校野球大会の支援	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	野辺地中学校をはじめ、近隣町村の中学校も招待し、大会を開催する。野球競技を通じて、各校の交流を図るとともに、チームの団結力及び競技力向上を目指す。			
事業の対象	中学生			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	20 千円	16 千円	17 千円

事業の実績・成果等（数値）	日　時：平成２９年４月２９日（土）、３０日（日） 場　所：野辺地町営球場 参加校：野辺地中、東北中、上北中、六ヶ所第一中・六ヶ所第二中、 横浜中・千歳中・泊中　８校５チーム 優　勝・・・六ヶ所第一・第二中合同チーム 準優勝・・・野辺地中チーム

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	シーズン序盤のチーム力を図る大会として、各校の参加意欲の高さが見受けられるが、少子化により部員数の減少がみられ、チームを組めない学校があったため、混合チームでの参加を認めている。 今後、混合チームでの参加が見込まれ、チーム数が減少することが考えられるので、運営面について協力団体と協議が必要である。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		C	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

これからも継続してもらいたい。

評価委員意見（平成29年度）

今後チームが少なくなっていくのであれば、高校生を呼ぶなどして、野球教室を一緒に開くのもいいと思う。
シーズン初めの試しになるので大事な大会だと思う。
子どもたちの数も減り、チームも減っているのでやり方も変えていかなくてはいけないと思う。
主催が野球協会なので、次回からは評価項目から外すことを検討してもいいのではないかと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県小学生スキー大会の開催	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	スキーを通じて児童の健全育成及びスキー技術や資質の向上を目標とし、スキーの町、野辺地町を全県的に広報しながら、実行委員会を中心に町をあげて応援、実施するものである。			
事業の対象	県内小学生３～６年			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	1,505　千円	1,397　千円	1,492　千円

事業の実績・成果等（数値）
期　　日：平成３０年２月３日（土）、４日（日） 場　　所：国設野辺地まかど温泉スキー場 競技種目：距離競技、大回転競技、リレー競技 参 加 校　４１校　　参加人数　１５０名 12/１　第１回実行委員会 1/25　第２回実行委員会 1/31　陸上自衛隊第５普通科連隊と支援に関する協定書締結 3/16　第３回実行委員会

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題
平成２７年度より距離競技３年生の部を設置以来、参加者の減少が停滞しつつある。 しかし、リレーチームを組めない状況にあるので、オープン参加による混合チームでの参加を認め、多くの子ども達が参加できる機会が与えられるようにしている。

事業の方向性
■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	A	B	A	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

リレーチームが組めないなか、本当に現場は頑張っている。
もっともっと盛り上がってほしい。
今後も継続してほしい。

評価委員意見（平成29年度）

人が減ってなかなか難しいとは思う。
学校対抗だけでなく、オープン参加を認め、子どもたちが参加しやすいようにしているのがよい。
なんとかスキー発祥の地として頑張って継続してほしい。
県内でも少しずつこういった大会が減っているので、広報などで町民に協力を募って盛り上げていってほしい。
スキー関係者と一般の人との間に少し壁があると感じるので、その部分をつなげてくれる方がいるとありがたいと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民駅伝競走選手強化支援	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	県主催の市町村対抗駅伝競走大会である。 各学校の陸上部、スキー部顧問、アスリートクラブ等で実行委員会を組織し、参加対象者の中学生、高校生、一般選手を育成して、町選手団として大会に臨む。			
事業の対象	中学生・高校生・一般			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	639 千円	612 千円	640 千円

事業の実績・成果等（数値）	期日：平成２９年９月３日（日）青森市 結果：総合の部　１０位　　町の部　４位 合同練習会　６／２４、７／８　　選手選考会　７／１５、７／２０ 現地試走会　８／１６、８／２６、８／２７ ５／３１　　第１回実行委員会 ７／３１　　県へ選手名簿提出 ８／２１　　市町村代表者会議 ８／２９　　第２回実行委員会兼付添者会議

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	選手、関係者が一丸となり団結して総合力でタイムを縮めた印象がある。 町代表として選考されなかった選手が自分のことのように代表選手を応援し、代表選手はそれに応えようと努力していた。このチームとしての一体感がメディアを通じて、町に活気を与えられればと思う。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

チームが上位入賞できるならば、観客を呼んでパブリックビューイングを実施してはどうか。

評価委員意見（平成29年度）

一生懸命練習しているが、その様子が分からない。そもそも走るメンバーが町民には事前に伝わっていない。
終わった後の報告は広報に掲載されいるが、大会前のメンバー紹介などもあっていいと思う。
他町村では、チラシで出しているところはある。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町体育協会活動支援	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	当町のスポーツ振興の中核を担う体育協会を支援し、町民の体力・競技力を育てるとともに、スポーツにより町の活性化に資するものである。 平成２９年度　加盟団体　２２　登録者数７５６名			
事業の対象	一般町民			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	823 千円	940 千円	940 千円

事業の実績・成果等（数値）	第４０回上北郡総合体育大会参加支援 平成２９年６月３日（土）、４日（日）　横浜町ほか １２競技参加　優勝種目：バスケットボール（男）、柔道 総合成績：７町村中５位 第７２回市町村対抗青森県民体育大会参加支援 平成２９年７月２９日（土）、３０日（日）　青森市ほか ７競技参加　優勝種目：柔道 ３０町村中１６位

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	各大会で上位入賞を目指して活動に励んでいるため、各加盟団体では活発にスポーツ活動が行われている。町体育協会全体としての運営については今後も検討する必要がある。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	C

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

体育協会がより積極的、主体的に運営できるよう支援して欲しい。
組織として、より自立する方向に向かうのが望ましい。

評価委員意見（平成29年度）

年々借り上げバスの料金の値上がりなどにより、自己負担のが多くなっているが、組織として、自立できるようになればいいと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	競技スポーツ強化支援事業	担当者名	石田　晃

事業の目的・内容	まち・ひと・しごと創生総合戦略登載事業 東北大会、全国大会への出場が決定した町内小中学校、高等学校に在籍する個人、団体に対し、事前の強化合宿及び遠征に必要な経費を助成し、大会での上位入賞を支援するとともに、町の子ども達の目標となる選手の育成及び競技力向上を目指し、活気ある町勢を実現する。			
事業の対象	町内小学校、中学校、高等学校に在籍する個人・団体			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	1,267 千円	1,326 千円	1,900 千円

事業の実績・成果等（数値）	申請団体：野辺地中学校１件、野辺地高等学校６件 入賞者：（東北大会）２団体、２人 （全国大会）３団体、５人

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	助成対象者にとって、大会参加に当たりパフォーマンス調整がしやすくなり、大会での成績向上に寄与していると考えられる。 助成対象者がこの助成金を使用すれば、大会参加に向けて多岐にわたる計画を立案することができるため、更なる好成績を期待できる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

適格な予算配分で、効果的な支援をしていただきたい。

評価委員意見（平成29年度）

特になし。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	スポーツの記録等の収集・保存要領（平成９年制定）のもと、スポーツ史発行に向け各団体の情報収集を行う。 町制１００周年記念スポーツ史　平成９年８月２８日　発行 町制１２０周年記念スポーツ史　平成３０年３月発行　１５０部
事業の対象	学校、体育協会、スポーツ少年団

事　業　費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	0 千円	245 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	年２回（１１月下旬、３月下旬）学校・体育協会・スポーツ少年団へ情報提供を依頼し大会出場記録等をいただいている。 ※今年度より収集したスポーツ情報をHP上に掲載する。 ＊１２０周年史＊ 発行部数…１５０部　全頁…２２５P　印刷製本費…２４６，２４０円 ２０年分のスポーツに関する歴史を町、各団体毎に掲載した。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	１００周年記念スポーツ史作成以降、２０年分の記録集として１２０周年記念誌を作成した。今後も情報を収集し、１３０周年に記念誌を発刊する、もしくは別の形で活用する等、その活用方法についてはより良い方法を検討していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		C	B	B	B	C	C

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

将来的には、直に検索できるような、常に更新できるようなデータシステムにして欲しい。

評価委員意見（平成29年度）

町外の人でもほしい人はいると思う。
次のスポーツ史の発行に向けて、データの蓄積が大変だと思う。
毎年、各団体からデータとして提供してもらうなどの工夫が必要だと思う。
紙媒体で提供いただいたものは、一年ごとにデータ化し、内容を各団体に確認してもらった方がよい。
事業の担当者が変わった際の引継ぎが大切だと思う。
字句の誤りがあったので次回の作成の際は、そういったことが無いようにしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツカレンダーの発行	担当者名	荒谷　成美

事業の目的・内容	スポーツ推進委員名簿・体育協会名簿・スポーツ少年団名簿・体育施設の情報・大会予定日等を掲載することで、町民の意識を高め、よりスポーツを身近に感じてもらう。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２６年度より毎戸配布から施設及び町ＨＰへの掲載としている。 　３月下旬　各団体へ情報提供依頼 　４月中旬　情報整理、カレンダー作成準備 　５月１日　町内各施設へ設置、町HPへ掲載 設置場所 　町内公共施設　計４７０枚 　小・中学校掲示用　各１枚　　計　４７４　枚

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町民の方へよりスポーツを身近に感じてもらうため、町内スポーツ施設や公民館等の人が集まる場所へ設置している。平成２９年度デザインを若干変更し作成した。今後、よりスポーツを身近に感じてもらえるよう工夫していきたい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

今後も継続してほしい。

評価委員意見（平成29年度）

　ほしかったがどこにあるかよく分からなかった。前は毎戸配布だったから助かっていた。

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設の総合的な修理修繕と運営	担当者名	玉山　順一

事業の目的・内容	住民が気軽にスポーツを楽しむことが出来るよう、使いやすく、快適性のある身近なスポーツ施設整備の促進に努める。そのため、スポーツ施設の整備充実を図る。
事業の対象	社会体育施設（スポーツ施設）

事業費	年　度	平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
	金　額	3,712 千円	23,803 千円	17,511 千円

事業の実績・成果等（数値）

各社会体育施設修繕　　平成29年度

支出	町立体育館	修繕	5,546,192円	備品購入	235,515円
	運動公園	修繕	1,075,032円	備品購入	145,908円
	プール	修繕	11,565,288円	備品購入	3,578,900円
	体育センター	修繕	1,656,720円		

①野辺地町立体育館
施設修繕（玄関等塗装改修工事、競技場内部分張替、水銀灯交換ほか）
備品：バスケットボール8個、バレーボール4個、ソフトハンドボール2個ほか
②野辺地町運動公園
施設内修繕（芝刈機、遊歩道等補修、東屋塗装修繕等）
備品：ほか
③屋内温水プール
施設内機械改修工事・修繕等
備品：トレーニング機器２台、ＡＥＤ１台、高圧洗浄機１台ほか

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

成果：予算の範囲内で工事・修繕・備品購入等が予定通り実施できた。
課題：本年、体育施設において修繕等を計画的に実施しているが、老朽化ですべての施設において大規模な工事等が必要である。
H29度新総合体育館（仮称）の基本構想及び建設計画を策定。
建設に向けて事務を進めていく。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

公式の大会など開催できる施設として改修してほしい。
災害時の避難所としての役割としても考えた整備をしてほしい。
修繕、工事においては、町内の業者を優先して使ってほしい。
今後、新築を考えているならば、総合的に使えるような施設にしてほしい。

評価委員意見（平成29年度）

昨年度と同様の意見です。
・公式の大会など開催できる施設として改修してほしい。
・災害時の避難所としての役割としても考えた整備をしてほしい。
・修繕、工事においては、町内の業者を優先して使ってほしい。
・今後、新築を考えているならば、総合的に使えるような施設にしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設利用団体会議開催による有効活用意見の聴取	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	限られたスポーツ施設をより多くの団体が利用できるよう調整して、年間の割当てを決定する。			
事業の対象	体育協会、スポーツ少年団、中学校部活動、高等学校部活動			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	○割当団体 町立体育館　　１４団体 青少年体育センター　　８団体 運動公園　　８団体

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	利用割当てを決めることにより、円滑に各団体が利用できている。 しかし、昨年度と同様、利用時間を守らなかったり、ゴミを片付けなかったりとマナーが悪い等、他に迷惑をかけている団体が見受けられる。皆が協力し合いスポーツ活動ができるように、委員会として強く指導することも必要か。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。
もっと、利用者に規制して厳しくしてほしい。
利用者に使った後のゴミ等あとしまつをチェックできるようなチェック表を書いてもらってらどうか。

評価委員意見（平成29年度）

チェック表を用意して、利用法について管理していて、工夫が見られていいと思う。
昨年と同様に利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	キャリア教育の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	チャレンジショップ	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	これからの地域を担う児童・生徒を対象に「自ら考え、実践する力」を育むことを目的とし、キャリア教育の支援を支えるため、持続可能な地域社会の構築とコミュニケーション能力の育成を目的に実施する。			
事業の対象	小学３年生から中学生			
事　業　費	年　度	平成　28　年度決算	平成　29　年度決算	平成　30　年度予算
	金　額	商工会予算 千円	商工会予算 千円	商工会予算 千円

事業の実績・成果等（数値）	９月２３日（土）　９：００～１４：００ 「ずっぱど・わっかど産業まつり」内で、子ども達が企画から販売までを行った。 （たこ焼き） また、当日会場で使える商品券を報酬として配布した。 事前の研修では、販売する商品の決定や役割分担、試作を行った。 参加人数　３名（小６：３名／若葉：３名／男３名）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：販売体験だけでなく、企画の段階から事業に携わることで、子ども達は、商業の楽しさや苦労、達成感を味わうことが出来た。 課題：子ども達の主体的な活動意欲を生み出すためにも、商工会との連携を継続していくことが今後の人財育成につながるものと考える。 　ただし、学校行事等の日程が重複する等の要因により、参加者の確保が年々難しい状況であることから、委員会実施事業との連携等を協議・検討していく必要がある。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	髙田委員	柴崎委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H28参考
		B	B	B	B	B	A

評価委員意見（参考：平成28年度の評価意見）

子どもたちにこういう体験の機会を与えられることは非常に良い事だ。
是非、今後も続けてほしい。

評価委員意見（平成29年度）

　今年度は、空き店舗を利用して実施するらしいが、まずは子どもたちが安全にできるようお願いしたい。
　午前中には完売するなど好評ではあるが、参加人数が増えればなおいいと思う。
　商工会としては、とても助かっていて、担当の人にはこれからもがんばってほしい。